

関東学院 中期計画

(2020-2024)



学校法人 関東学院

目 次

I. 全体	1
II. 各学校等の中期計画(2020-2024)	
関東学院大学	3
関東学院中学校高等学校	8
関東学院六浦中学校・高等学校	12
関東学院小学校	19
関東学院六浦小学校	22
関東学院六浦こども園	26
関東学院のびのびのば園	30
法人	35

関東学院中期計画(2020-2024)

I. 全体

1. 中期計画(2020-2024)の策定に向けて

関東学院は、創立125周年を迎えた2009年の翌年から、次の四半世紀後の150周年(2034年)に向けた長期の方向性としての学院グランドデザインを策定しました。

関東学院は、このグランドデザインに向けて歩んできました。その間、2012 年には各校における 6～7 年の Olive7(中期目標と計画)を策定しました。さらに、2014 年からは 10 年後の姿を見据えた未来ビジョンを策定し実現に向けた活動を開始しました。

一方、これらの計画や構想の策定時の学院をとりまく環境が急速に変化してきました。少子化やグローバル化、ICT 技術の進展はもとより、大学では定員管理の厳格化、内部質保証に向けた教育改革及び高大接続改革など新たな高等教育施策も求められています。

関東学院の重要な経営判断として、大学の横浜・関内キャンパス開学を決定し、整備改修計画を進めています。本学院全体の持続的発展を可能にするために、環境変化に対応して教育研究の特色を伸ばし、より信頼される学院づくりに取り組んでいます。

これまでの Olive7(中期目標と計画)は、次の 5 年間の「中期計画(2020-2024)」に含める形で再構築し、今後取り組むべき重点課題を設定するとともに、それらに対する行動計画を構築し、確実に実行していくこととしました。

創立	100周年	125周年								140周年	150周年
1884	1984	2009	2010	2011	2012	2014	2016	2017	2020	2024	2034
			GD 基本	GD 各校							

グランドデザイン(GD)・Olive7(中期目標と計画)・未来ビジョン(未来V)・中期計画の変遷

2. 中期計画(2020-2024)の基本理念

中期計画の基本理念は以下の関東学院の理念に基づいています。

関東学院の建学の精神は、キリスト教の精神にある。他者を理解し共感するための広く深い教養を修得し、他者のために行動できる奉仕の精神を涵養することにある。多様性の中での自己の確立と共生のための教養を礎に、人のため、社会のため、ひいては人類のための思考と行動を通して、次世代の社会を他者と共に創り上げることを目指す。

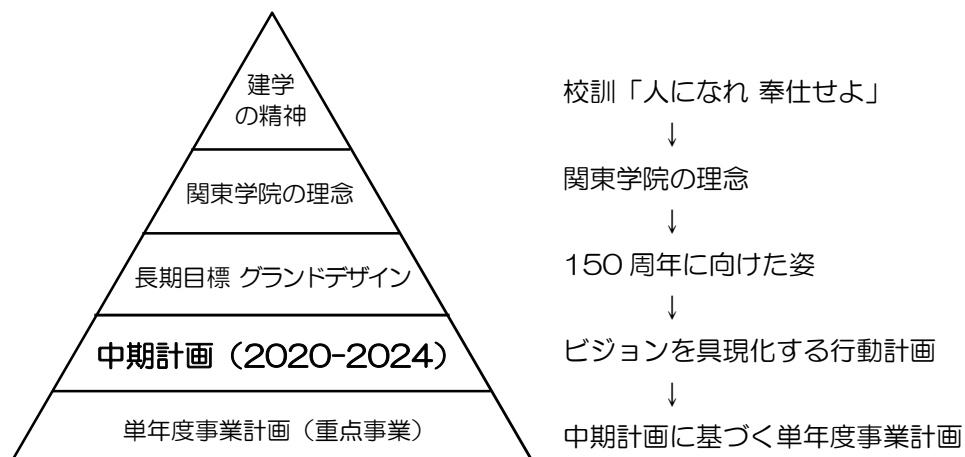
関東学院は、校訓「人になれ 奉仕せよ」により、キリスト教の精神に基づき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く、という教育方針を継承してきた。

関東学院は、教育研究機関としての真理探究に加え、キリスト教の精神に基づき、社会において主体的に自立して生きるための知識と技術を養い育てることを通じて、社会に貢献しつつ校訓「人になれ 奉仕せよ」を体現することのできる人材を育成する。

中期計画(2020-2024)では、現行の中長期計画の根幹をなすグランドデザイン及び未来ビジョンを基本的に継承し、今後5年間のうちに実行すべき重点事項・施策を策定します。

それに基づいて毎年度の予算編成方針と事業計画を策定します。

中期計画は、毎年見直しを行い、次の5年間の中期計画として更新してゆきます。



建学の精神・理念・長期目標・中期計画・単年度事業計画(概念図)

Ⅱ. 各学校等の中期計画(2020-2024)

関東学院大学 中期計画(2020-2024)

学長 小山 巖也

関東学院大学は、キリスト教の精神に基づき、「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、次世代の社会を他者とともに創り上げる教養と知識技術を有する人材を育成し、社会に貢献することを目的としています。

学院では、創立 150 周年に向けた学院の大きな基本理念・教育像を目指す「関東学院グランドデザイン」を 2011 年に策定し、2014 年には、その時点から 10 年後の「ありたい姿」を示した「未来ビジョン」を策定しました。

「未来ビジョン」では、「建学の精神に基づき、これからの共生社会の創造と持続的発展に貢献する大学」を目指すため、「教育」「研究」「社会連携」「かたち」の4つの領域、15 の基本戦略、そしてビジョン実現に向けた 50 のアクションプランを設定しました。本学ではこの5年間、それらのアクションプランを着実に実行し、成果を挙げてきました。

他方で、この5年間で社会情勢その他も変化し、当時設定したプランのうち、ビジョン実現に向けた合理的で最適なプランでは無くなったものもあります。

そこで、後半期を迎える「未来ビジョン」のアクションプランの一部を見直し、2020～2024 年度の中期計画として新たに5年間の計画を設定します。

1. 方針

本学では、長期的ビジョン実現に向けた不断の努力を継続しつつも、あるべき姿に向けての直近の目標を達成するために、「教育」「研究」「社会連携」「組織・運営」という4つの大きな柱を中心として、そしてそれらが有機的に繋がって大学の総合力が高まるよう、次の方針に基づき事業を展開することとします。

- (1) 高等教育機関としての矜持を保ち、教育、研究、社会連携のそれぞれの分野において地域社会からの信頼とブランドを確固たるものとし、社会からの期待に応える。
- (2) 入学前から卒業後まで、学生に寄り添い成長させる大学として、一貫したエンロールメントマネジメントを確立し、社会からの評価を受ける。
- (3) 安定した経営環境のもと、教育者、研究者、大学教職員が自立した組織の一員として自覚し、目標達成を目指す組織体となる。
- (4) キャンパスの機能別分化を進めることと合わせ、次のとおり一層の環境改善を図る。
 - ① 学びが促進され、かつ長く滞在したいと感ずることができる教育環境の充実
 - ② 教育や研究がこれまで以上に活性化され、モチベーション向上に繋がる研究環境の充実
 - ③ 業務内容が適正に評価され、より働きやすい職場環境への改善
- (5) 迅速な意思決定及び効果的・効率的な大学運営を行うため、引き続き学長、副学長及び学部長を構成員とする全学会議を有効に機能させるとともに、教職協働を推進する。

2. 概要

本学の掲げる教育理念、使命、目的に沿った事業・活動を通じて、個性豊かで独自性の高い、唯一無二の高等教育機関としての確固たる地位を築き、社会からの負託に応えるため、次の 11 の事業を中期計画(2020-2024)と定めます。

- (1) 学生が自ら成長を把握し、学修の方向付けができる体制の構築
- (2) 学部教育の継続的な見直しと特徴的な教育プログラムの設置
- (3) 多様な価値観を受容する環境の整備
- (4) SDGs の理念・目標に共感し、その達成に貢献できる人材の育成
- (5) 教育・研究組織の新たな展開
- (6) 本学での学びを強く希望する生徒を多面的・総合的に選抜する制度の確立
- (7) 研究力のより一層の強化のための研究者支援の取り組み
- (8) 自治体、企業及び各種団体との相互互惠関係を原則とした連携の確立
- (9) キャンパスの機能別分化
- (10) 教職員の活動の可視化
- (11) 効率的な管理運営組織の確立

関東学院大学 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	分類	項目	内容	対応する未来ビジョン アクションプラン
1	教育	学生が自ら成長を把握し、学修の方向付けができる体制の構築	主体的に学修に取り組めるよう学生自らが成長を把握できる仕組みを整備し、成長をこれまで以上に教職員がサポートする体制を構築します。そのために、シラバスの改編、カリキュラム・マップ、ルーブリック、ディプロマ・チャート及びナンバリングの整備、教学 IR の強化等を進めます。	PrjNO.9 『教育の質保証体系化の基盤づくり』
2	教育	学部教育の継続的な見直しと、特徴的な教育プログラムの設置	授業時間を現行の 90 分から 100 分へ変更します。『キリスト教人間学インスティテュート(仮称)』及び『スポーツインスティテュート(仮称)』の設置を進めます。 密度ある学修体制を整備するため、科目の統合や再編も含めカリキュラムや教育手法等について引き続き点検、見直しを実施します。また、各学部における特徴的な教育プログラムを今後も展開します。	PrjNO.1 『学びのニーズに応える学部構成』 PrjNO.2 『学部を超えて共に学ぶ教養科目・語学科目』 PrjNO.5 『キリスト教教育及び自校史教育の拡充』 PrjNO.51 『教育機関として大学スポーツを支援する体制の構築』
3	教育	多様な価値観を受容する環境の整備	日本人学生と留学生が生活を共にする国際混住寮『インターナショナル・レジデンス(仮称)』を建設します。また、教育プログラムの提供や教員の派遣など、これまで海外大学等との連携拡大を図ってきましたが、今後は、さらに特定の海外大学等との関係深化を図ります。 留学生数については、当面の目標である全学生数に対する比率3%に向けて引き続き受入れを促進します。 このほか、未来ビジョンのプロジェクトとして進めてきた日本文化体験短期プログラムやグローバルラウンジの地域開放などの施策を進めます。	PrjNO.12 『社会のグローバル化に対応する教育及びキャンパスの国際化の推進』 PrjNO.13 『海外大学等との連携拡大』 PrjNO.20 『地域の子どもたちへのサポート制度(留学生)』
4	教育	SDGs の理念・目標に共感し、その達成に貢献できる人材の育成	本学グランドデザインの基本理念「21 世紀共生社会の創造とその持続的発展に貢献」とその方向性が合致する SDGs について、教育・研究活動での活用や、その達成に貢献できる人材の育成を推進します。	

5	教育研究	教育・研究組織の新たな展開	<p>大学院組織について、定員の見直し、学位授与数の目標設定などといった研究科全体の改革について検討します。</p> <p>このほか、編入学生増加の方策、関内キャンパスの開設に伴う社会人の学びなおしプログラム、学部横断の学位プログラムの設置について検討します。</p>	<p>PrjNO.8 『総合大学としての全学的な学びの構築と支援体制の整備』</p> <p>PrjNO.10 『社会人向け教育プログラムの設置』</p>
6	教育	本学での学びを強く希望する生徒を多面的・総合的に選抜する制度の確立	<p>建学の精神、教育目標、3つのポリシーに基づき、本学での学修を強く希望する生徒を受け入れるため、多面的、総合的評価によって入学者を選抜する制度を整備します。入学者の学修状況を継続的に分析し、入学後のミスマッチを防止するとともに、本学で成長する学生像に合わせた選抜制度の改革を推進していきます。</p>	
7	研究	研究力のより一層の強化のための研究者支援の取り組み	<p>研究成果に対する客観的な評価と顕彰制度の導入を進め、研究力の向上を図ります。また、本学教員と海外大学等の教員の研究を基礎とした国際的ネットワークを大学として支援する制度を確立します。</p> <p>このほか、多様な研究者の受入れ体制の整備、及び科学研究費助成事業等の外部資金の一層の獲得を進めるための制度を検討します。</p>	<p>PrjNO.14 『外国人研究者の支援体制の整備』</p> <p>PrjNO.23 『重点領域研究プログラムの展開』</p>
8	社会連携	自治体、企業及び各種団体との相互互惠関係を原則とした連携の確立	<p>社会と大学との行き来を通じて学生の成長を促す社会連携教育を引き続き推進するため、自治体、企業等との連携を今後も拡大、深化させていきます。また、共同研究や共同教育プログラムに結びつく産業界等との連携を進めます。</p> <p>なお、サービスラーニングセンターの設置についても引き続き検討します。</p>	
9	組織運営	キャンパスの機能別分化	<p>2023年に、JR 関内駅近くの旧横浜市教育文化センター跡地へ新棟を建設し、関内キャンパスとして経営学部、法学部及び人間共生学部コミュニケーション学科を移転させます。</p> <p>また同年、国際文化学部及び社会学部を金沢文庫キャンパスから金沢八景キャンパスへ移転させる予定です。このことにより、金沢八景と関内を修学地とし、全体として、キャンパスの機能別分化を図ります。</p>	

10	組織運営	教職員の活動の可視化	<p>研究業績に比べて、教員の教育活動及び業績は見えにくいことから、それをできるだけ可視化し評価できる制度を検討します。</p> <p>また、モチベーションを醸成するための職員の相互評価制度(部下から上司、同僚による)の導入を検討します。</p>	<p>PrjNO.28</p> <p>『教員活動の見える化とインセンティブ制度の導入』</p>
11	組織運営	効率的な管理運営組織の確立	<p>教育活動へ還元するための収益事業会社の設立について検討します。</p> <p>また、一層の経費削減・合理化に努める一方で、それらの活動をより良い教育へ反映させるための制度の導入について検討します。</p>	

関東学院中学校高等学校 中期計画(2020-2024)

校長 森田 祐二

VUCA 時代と言われる、先行きが不透明で、将来の予測が困難である状況において、また社会の在り方が大きく変わる Society5.0 時代も到来する中、関東学院中学校高等学校の中期計画は、複雑に絡み合う社会の諸問題に関心を持ち、異質な他者と協働し、様々な社会的変化を克服する力を身に付ける教育を実践することとします。以下に、教育の理念、目標、使命に立ち方針を掲げます。

教育理念

イエス・キリストを土台とするスクールモットー「人になれ 奉仕せよ」を具現化し、神様から与えられた力を十分に伸ばし、その力を社会のために、他者と共に用いて未来を切り拓く、知恵と勇気を持つ人を育てます。

教育目標

1. 聖書の教えを通して、人が生きていくうえで大切にすることを選択する判断力を持つ人を育成します。
2. 質の高い授業を通して得る知識や技能を用いて、将来設計を組み立てる思考力を持つ人を育成します。
3. 21 世紀共生社会の担い手として行動できる人を育成します。

使命

人は世相によってめまぐるしく変化する価値観のなかで生きていくことが課せられています。あらゆる局面の中で要求される選択と集中の場で、何を大切にするかという価値観をしっかりと持っていれば、その判断はゆるぎないものとなります。その価値観とは、イエス・キリストが示した生き方、他者とともに生きることを大切にすることです。そしてともに生きるのに必要な力、専門的な知識や高い技能と併せて他者を思いやる心と知恵を持ち、判断力・思考力・行動力を備えた人を育成し、各人が卒業後の進路で自ら培った知恵と力を発揮させることを 21 世紀共生社会における使命とします。

1. 方針

中学校高等学校の概ね中期計画の方針として、生徒ひとり一人の可能性を引き出し、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、以下の項目を掲げて進めて行きます。

- (1) 進学準備教育の充実
- (2) 学びの先を見据えた「Olive STREAM」教育の推進
- (3) 人間性を育む多様な学びの機会の創出
- (4) 教育を支える施設設備の拡充と改善

2. 概要

中学校高等学校の中期計画の概要として、進学準備教育の充実と教育ビジョン Olive STREAM の推進、また指導の個別化と学習の個性化に適応できる ICT 環境の整備、それを適切に活用した学習活動の充実を図ります。そして自分とは異なる多様な人々を認め、価値のある存在として尊重し、他者と協働して社会的変化を乗り越えるための教育プログラムを策定します。そのために必要な学校改革を継続して進めることとします。

- (1) Olive STREAM を視点とする教科学習の高度化
- (2) メディカル・プログラムの充実及び実行
- (3) Olive STREAM を体現する教養講座
- (4) 国内外研修の充実
- (5) 学習成果を発揮する機会の創出
- (6) 外国人留学生の積極的な受け入れ
- (7) インクルーシブな社会に向けての教育の推進
- (8) 音楽系部活動による教養教育
- (9) ICT 環境整備・拡充
- (10) 施設設備の整備・拡充

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院中学校高等学校 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画の時期の目安
1	Olive STREAM を視点とする 教科学習の高度化	2021 年度 教育計画委員会、進路指導委員会、英語科と 連携しプラン策定 2022 年度 模擬試験、検定試験等による点検・評価 2023 年度 指導個別化、学習個性化の点検・評価 2024 年度 教科目標値への到達
2	メディカル・プログラムの充実と 及び実行	2021 年度 進路指導委員会と連携しプラン策定 2022 年度 医学部系予備校、医系大学との情報交換と 連携 2023 年度 医療体験学習の実施 大学病院、救急救命センター等において、またオンラインを 用いての医療体験 2024 年度 点検と評価
3	Olive STREAM を体現する教 養講座	2021 年度 進路指導委員会、各教科会と連携しプラン策 定 2022 年度 研究・開発の継続と外部への情報発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 Olive STREAM プログラム点検・評価
4	国内外研修の充実	2021 年度 教育計画委員会、探究学習委員会、進路指 導委員会、各教科会、旅行社と連携しプラン策定 2022 年度 試験的導入と外部への情報発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 高1 探究ショートツアー導入 点検と評価
5	学習成果を発揮する機会の創出	2021 年度 教育計画委員会、探究学習委員会、進路指 導委員会、各教科会、旅行社と連携しプラン策定 2022 年度 試験的導入と外部への情報発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 導入後の点検と評価
6	外国人留学生の積極的な受入	2021 年度 留学受入機関、教務委員会、英語科と連携し プラン策定(社会情勢により変更有) 2022 年度 各機関と調整しつつ導入、外部への発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 導入後の点検と評価

7	インクルーシブな社会に向けて の教育の推進	2021 年度 スペシャルオリンピックス、青少年赤十字、インターアクト、宗教委員会と連携しプラン策定（社会情勢により変更有） 2022 年度 各機関と調整しつつ導入、外部への発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 導入後の点検と評価
8	音楽系部活動による教養教育	2021 年度 オーケストラ部、マーチングバンド部、ハンドベル部と連携しプラン策定 2022 年度 研究・開発の継続と外部への情報発信 2023 年度 点検・評価、さらに研究・開発を継続 2024 年度 導入後の点検と評価
9	ICT 環境整備・拡充	2021 年度 ICT 委員会、教務委員会、各学年会、事務局と連携しプラン策定 2022 年度 Wi-Fi 環境の整備完了 教職員への研修実施 2023 年度 全学年端末所持（BYOD 含む） 個別化・個性化学習の研究と開発・ 2024 年度 導入後の点検と評価
10	施設設備の整備・拡充	2021 年度 法人と連携しプラン策定 2022 年度 新施設建設に向けてワーキングチーム発足 2023 年度 各機関との調整、建設計画の策定 2024 年度 建設工事

関東学院六浦中学校・高等学校 中期計画(2020-2024)

校長 黒畑 勝男

六浦中学校・高等学校の中期計画は、生徒たちが想像することも難しい、未来社会に対応できる力を身につける教育の計画とします。あらためて教育理念を不変のものとして確認し、一方で社会の変化を眺めて教育の在り方を点検し、新しい教育についての検討を継続的に進め、その具体化と実践を迅速に進めます。生徒募集に訴求力のある教育のフレームについても検討します。以下に、教育の理念、目標、使命に立ち方針を掲げます。

教育理念

校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、キリスト教を土台にした人間教育を行い、隣人愛の精神に立ち、平和的発展と持続可能な活動を相互に認め合う心と奉仕の精神を育みます。また、幅広い知識・教養を身につけ多くの実学的経験を重ねることによって、主体的な行動力を持つ人類社会に貢献できる人を育てます。

教育目標

1. 「共に励まし合う」人の育成
2. 「社会に奉仕する」人の育成
3. 「平和を尊重する」人の育成

使命

聖書の教えを土台にし、生徒それぞれの主体的な学びと協働及び奉仕の精神を重んじる活発な行事や活動などを通して、未来の社会に貢献できる人としての素地をつくること。並びに、生徒それぞれが、自分自身に与えられた使命を見出し、地球市民として平和で持続可能な社会づくりに励む人に育つことを教育の使命とします。

1. 方針

六浦中学校・高等学校の概ね 5 年間の中期計画の方針は、2015 年度から進めてきた改革や改善内容をいっそう前進させ、未来の社会に対応できる力の育成という観点から束ねる教育の実践とします。ますます進む少子高齢化と急激な国内外の社会のフラット化の中で、求められる教育を実践する学校として募集力を高めます。同時に長期展望に立ち、学院内高大連携に関しても価値ある系列校のあり方を追求します。以下の項目を掲げて進めて行きます。

- (1) 新しい学び方と学びの内容の追求
- (2) ICT環境の利用の恒常化による個別の資質・能力を育成する教育の実現
- (3) 教員の継続的な意識改革
- (4) 教育フレームの特色化

2. 概要

六浦中学校・高等学校の中期計画の概要としては、教育事業の内容においては学び方の点検を行い、探究型の学習を推進します。ICT 環境の利用を恒常化させ、学びや学び方を多様な子供たちに対して公正に個別最適化し、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する取り組みの推進とします。また、校内外の教育機会を利用し、主体的な考察力、創造力、実行力を育むプログラムを推進します。

教育の各取り組みにおいては、自律的な学習と生活習慣の確立による「認知能力」の向上、全ての学びや活動を通して「自己啓発力」と「非認知能力」の向上、「主体的な意思決定」ができる力と他者との「相互尊重の精神」の涵養、「国際的な視野」を持ち「地域社会での平和」と安寧の維持を実践する力の育成、多文化共生社会における「ボーダーレスで活躍できる言語能力」の習得、課題を解決するための高い「コミュニケーションの能力」の習得を目指し、以下の領域で実践的な教育を行います。

- (1) 基礎学力の確かな定着を目指す、学齢に合わせた自立的学習力の確立
- (2) 習得した力、知識・情報を社会の事象と組み合わせる探究型学習の活発化
- (3) クリティカル・シンキングに繋がる文章理解力、作成力の向上を目指す授業の追求
- (4) 4技能英語教育の推進とアカデミックレベルに到達する英語基礎力の育成
- (5) 個人端末(1人1台個人所有)を積極的に活用する授業の構築
- (6) 個人端末による不可欠とする個人学習の恒常化の推進と自立型学習の確立
- (7) 学校での各人の活動、協働活動における個人端末の利用の常態化状況の創出

教員、学校組織は、業務の随所により時代により求められる新しい教育の観点を積極的に取り込むようにします。

- (8) 教育理念に基づき、生徒の力を最大限に引き出そうとする意欲と行動の共有
- (9) 過去の方法に固執せず、新たに必要な教育手法を積極的に取り入れる意識の強化
- (10) 社会の変化を読む教育の特色化の推進
- (11) 教育の特色化と連動する募集施策の推進

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院六浦中学校・高等学校 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画時期の目安
1	基礎学力の確かな定着を目指す、学齢に合わせた学習サイクルの確立	<p>2018 年度～ インターネット教材「すらら」、「Classi」の導入</p> <p>2019 年度～ 中 2～高 1 対象、自学「学習サイクル」の開発運用</p> <p>2020 年度～ 長期休業課題として「すらら」活用の定番化 中 1 対象、週末「学習サイクル」の導入 高 1～高 3 対象、自学学習エリアの設置、BPO によるチューターの導入 ICT 活用での家庭での反転学習、復習の促進</p> <p>2021～2025 年 新学習指導要領に基づく、新しい学力観に基づく授業改善・評価の観点の点検 (自学学習エリアでの「自走」支援のための BPO との教育連携の深化・探求的学びに繋がる基礎学力の充実のための方法の確立と運用)</p> <p>2022 年～2024 年 中学での理科と社会科の学習に関して、基礎的知識の習熟と定着を徹底する授業のあり方の点検。 (高校での学習に繋がる学習方法の策定(中 3 次、学力テストの実施))</p>
2	習得した力を社会の事象と組み合わせる探究型学習の活発化	<p>2015～19 年度 中 2～中 3 総合的学習、学校設定科目「地球市民講座」の開発・定番化 中 3・高 2 の学年全員での修学旅行を廃止し、「選択制グローバル研修」の設定 (コース開発、海外提携校の推進) 外部教育プログラムの授業への導入に着手(Junior Achievement Japan)</p> <p>2020 年度～ 中学の「地球市民講座」を受けて、「総合的な探究の時間」を、2020 年度高 1 から設定 外部教育プログラムによる探究型プログラムの増設と多岐化</p> <p>2021～2025 年度 新学習指導要領内容を包含する、本校独自の中学「地球市民講座」から連続する高1～3年の探究型学習の体系化、カリキュラムマネジメントの完成 (高 1 段階での個別の探究課題の決定への促し、高 2 段階での明確化とまとめ、高3自走型探究での大学入試形態への対応、進路開拓との連動化) (理科・社会科の基礎的アカデミックスキルとしての基礎知識の定着と確認のための測定方法の策定)</p>

3	クリティカル・シンキングに繋がる文章理解力、作成力の向上を目指す授業の追求	<p>2017～18 年度 国語科の授業 1 時間分を転換し、中 2・3 で文章力向上講座の開始 (教科を超える担当者の配置で全教員での取組み)</p> <p>2019 年度～ 中 1 で、基礎的な日本語力の定着のプログラム開始 (「文章力養成講座」の設置とカリキュラム開発)</p> <p>2020 年度～ 中学全学年で文章読解力、作成力に関する指導カリキュラムの完成を目指す</p> <p>2021～2025 年度 中 1～中 3 対象、「言語力活用講座」の深化 (カリキュラム・教材の完成と運用) (日本語 4 技能のバランスの良い育成) 高校での探究型学習への応用</p>
4	4技能英語教育の特化	<p>2015～19 年度 4技能重視の英語授業改革(CLIL の導入) 運用力の優れた生徒(中1)の取り出し授業の開始 英語特化の高校入試開始、中3Pre-GLE の開始 アドバンス・クラスと普通科 GLE 英語授業の設置と英語授業の差別化</p> <p>2020 年度～ 中1「取り出し授業」の学年進行での継続維持 CLIL の効果の検証と JET による単独授業の増 GLE 英語力、アカデミックレベルまでの引き上げ IELTS 受験特別講座の開講(学年オープン講座)</p> <p>2021～2025 年度 GLE のクラス設置とカリキュラムの確定 GLE クラスへの帰国生の取り込み推進と国際就学生の混在化を推進 日本語基準の International school 化 GLE 海外長期研修を一部必修化 GLE 国内の特色ある大学へ進学奨励と海外大学への積極的支援 (大学との連携でカピオラニ・コミュニティ・カレッジへの進学奨励) (マレーシアの Sunway, Taylor's, INTI の 3 大学への指定校枠の活用奨励) IELTS 成績の向上、卒業後の海外進学者比率の向上</p>

5	個人端末(1人1台個人所有)を積極的に活用する授業の構築	2015年度～ 校内・教室内 LAN 環境の設置 教室内電子黒板型プロジェクターの設置 教員の端末活用の授業開始 2016年度 日本教育工学協会「学校情報化優良校」基準の達成 2018年度～ 中2～高1全生徒が個人端末の携行所持を実現 (Google Chromebook の導入) 2019年度～ 個人端末の携行所持が中2～高2全生徒に増加 G-suite 利用の推進 2020年度～ 中1～高3、全生徒の個人端末所持の完成年度 (中1生の所持) Google Classroom の利用の促進 プログラミング学習の導入、試行と実践 Google for Education, JAPAN からの「Google for Education 実践校」認定校基準の達成
6	個人端末による個人学習の恒常化の推進と自立型学習の確立	2021～2025年度 Google Classroom の徹底化と e-learning 教材の活用促進による「学習の個別最適化」の推進 e-learning 教材を用いた反転授業の推進 六浦中学校・高等学校版プログラミング学習の開始 (情報教育、プログラミング学習の高度化に伴う学校内のパソコン環境の整備) *生徒個人には Google 社の Chrome OS を搭載した Chromebook の一括購入方法の変更の検討 *情報教育の高度化で、学校情報教室の整備。 「Space Labo」として整備(2021年8月) 情報教育に必要な Windows 搭載パソコンは授業選択者の個人所有で持参の方向でカリキュラム、授業の設計をすることとして検討
7	学校での各人の活動、協働活動における個人端末の利用の常態化状況の創出	
8	教育理念に基づき、生徒の力を最大限に引き出そうとする意欲と行動の共有	2015年度～ 教員研修会(主として生徒指導・支援)の開催 教員間での授業参観の実施 教員の校外、外部研修への参加を促進 教員資料室の再配置 2016年度～ 国内外、選択制グローバル研修への引率業務を増加 2017～19年度 教員間の授業参観と実施の高度化(研究授業の実施) 教員研修会(新しい学び方、評価方法)の開催 教員の学校視察(東京、関西、北海道)と反映

9	過去の方法に固執せず新たに必要な教育手法を積極的に取り入れる意識の強化	<p>生徒制服規定などの見直し、業者の入れ替え 2020 年度～ ICT を積極的に利用する学習方法の取り入れの加速 (指導者からファシリテーターへの指導観の転換) 教科横断型、探究型学習の推進と協力体制の形成 中学1～3、キャリア教育のカリキュラムの完成 個別学習を支援するサポート体制の確立 (BPO 導入、平日放課後、土曜、長期休業中の自学環境の整備) 多様化する受験に対する指導体制の形成 増加する AO・総合選抜型への対応実務力の強化 生徒の「気づき」のためのプログラムの拡大 2021～2025 年度 授業改革の推進と進路指導の充実 (学び方の改善、授業の構造(教授法・教授内容)の改革、併せて評価方法の改革) 国際生の増加による多文化多様性の見える化の推進と進路開拓の国際化の推進 国内・外大学との接続連携での推薦ルートの強化 (Domestic 生に対してはアメリカ、マレーシア、中国、台湾、オーストラリアの充実) (International 生に対しては、国内大学) (カピオラニ・コミュニティ・カレッジへの進学奨励) (マレーシアの Sunway, Taylor's, INTI の 3 大学への指定校枠 2021 年付与される 活用奨励) (「PCD グローバル・キャンパス JAAC 校」との提携により、アメリカ 高校卒業認定資格 同時併修プログラムの開始(2022 年 5 月スタート) 「PCD グローバル・キャンパス JAAC 校」との提携で DDP(アメリカの高校卒業資格の同修了)コース履修の奨励(2023 年～在籍生徒の 5%を目指す)</p>
10	社会の変化を読む教育の特色化の推進	<p>2019 年度～ G-suite 利用の推進などによる ICT 環境の推進 特色ある教育としての GLE(高1)のスタート 企業等とのタイアップ、社会連携による実学的学習機会の増設 2020 年度～ 「公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本」提供のプログラムの積極的導入による普通科普通クラスの学びの主体性の増進 ローカル企業の協力によるフィールド・ワークの実践と生徒の主体的学びの活性化 「選択制グローバル研修」に校外プログラム活用の促進と生徒の主体的な設定の奨励 学習(研修)報告会の拡大と活性化</p>

		<p>英語教育(Olive Juniorを含む)のグローバル・スタンダード化への昂進</p> <p>海外提携校の増、留学の促進</p> <p>国際生・留学生の積極的受入れの準備開始</p> <p>学校生活全体での国際化の推進</p> <p>(GLE クラスのインターナショナル化の準備)</p> <p>2021～2025 年度</p> <p>GLE のクラス化、カリキュラムの特色化</p> <p>2023 年度中に GLE カリキュラムの見直し</p> <p>GLE 以外の特色ある理系でのフレームを設ける</p> <p>(全国展開できる政策)</p> <p>寮の設置と寮生の国際化</p> <p>(インバウンド編入生の積極的受入れ)</p>
11	教育の特色化と連動する募集施策の推進	<p>2015～2019 年度</p> <p>女子ラグビー部の創設と高校募集の開始</p> <p>「選択制グローバル研修」の多角化</p> <p>模擬試験会場校、英検会場校として、当日の学校説明会の実施</p> <p>海外の日本人学校、塾への PR、専門雑誌への露出度のアップ</p> <p>2020 年度～</p> <p>中学入試における特色入試の規模の拡大とPR</p> <p>適性検査型入試の導入による受験者層の拡大</p> <p>ホームページに英語・外国語のページを増設と教育と環境の特徴をイメージできるPR</p> <p>外部教育機関、実学的教育での協力企業とのホームページ上でのリンケージの増進</p> <p>過去 5 年間の進路実績で注目される卒業生の記事の特集</p> <p>2021 年度からの海外、全国からの高校募集に向け、学校寮の拡大、一定部屋数の確保、寮のPR</p> <p>2021～2025 年度</p> <p>入寮生の国際化の推進と地域生徒への魅力発信</p> <p>(地元生でも入寮できる制度を併用)</p> <p>2022 年度から海外日本人学校の指定校開拓の推進</p> <p>(2023 年度帰国生の 10～20 名の入学生確保)</p> <p>インバウンド編入生の適切で堅実な受け入れのための広報活動の推進と他の学校法人(大学)との連携</p>

関東学院小学校 中期計画(2020-2024)

校長 岡崎 一実

「関東学院グランドデザイン」(2011年)、「中期目標と計画(Olive7)」(2012年)、「未来ビジョン」(2017年)に示した基本方針と具体的施策に則り、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、6年間の学習・生活を通じて自分の夢を持ち、心の宝物をたくさん蓄えて人格の芯を形成し、神と人と社会に仕える奉仕の心を持ってそれぞれの夢を実現する力をつけて卒業していく、そんな児童を育成する「夢を育む学校」たることを目指して関東学院小学校の中期計画を策定します。

教育理念

キリスト教に基づく人間教育を教育理念とし、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、「夢を育む学校」として神と人と社会に仕える人間を育てる。

教育目標

1. 「“人になれ 奉仕せよ”を体現する子」を育てる
2. 「“夢を実現する学力”を身につけた子」を育てる
3. 「自分で考え、判断し、行動しようとする子」を育てる

使命

1. 「子どもたちの笑顔のために」

1. 方針

小学校の概ね5年間の中期計画の方針として、現在進行している「未来ビジョン」プロジェクト(2017-2026年度)の中で本中期計画(2020-2024年度)期間中に実施するプロジェクトの中から中核的な以下の項目を取り上げ、未来ビジョン、各年度の事業計画および施設建設プロジェクトと連動させて取り組みます。

- (1) 『夢を育む学校』の教育の創出
- (2) 豊かな学びと生活を保障する環境整備
- (3) プレゼンスの強化と三春台ブランドの構築

2. 概要

「夢を育む学校」を具体化する質の高い教育課程を編成するため、「中期目標と計画(Olive7)」「学院改革推進5カ年計画支援事業」で導入した事業を継続的に発展させるとともに、2020年度から始まる新しい教育課程のもと、ICT教育・英語教育の充実、「夢たまご」プログラムの策定など、

関東学院小学校の特色ある教育活動を創出し、充実させます。

豊かな学びと生活を保障する環境整備として、2014年度竣工の新校舎と新たに導入した施設・設備・備品を効果的発展的に活用するために教室棟や体育館の改修など計画的な更新を図るとともに、三春台校地全体の整備計画を見据え、小中高共用の新体育館建設など行き届いた教育を実現し教育効果をあげるための環境整備を、私立学校の特性を生かして進めます。

プレゼンスの強化と三春台ブランドの構築にあたっては、ホスピタリティあふれる学校としての評価を高めるとともに、「いつ来ても新しい、来るたびに好きになる」をコンセプトに、関東学院小学校らしさの醸し出された魅力ある私立小学校を目指して、関東学院小学校オリジナルの開発など創意あふれるサプライズが毎年継続的に提供できるよう、他の施策と連動させた計画的な運営を進めます。

これらのそれぞれの取り組みを以下のとおり掲げ、詳細を一覧表にまとめて示します。

- (1) 新しい教育課程の編成
- (2) 施設設備の更新と校舎改修、校地整備
- (3) 毎年イノベーション
- (4) 関東学院小学校オリジナルの開発

関東学院小学校 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画時期の目安
1	新しい教育課程の編成	2020 年 4 月 新教育課程実施 児童 1 人 1 台タブレット端末導入 TGGでの英語研修実施 ベルリッツ英会話学習本格実施 2021 年度 新教育課程の検証 児童 1 人 1 台タブレット端末導入の検証 「夢たまご」プログラム検討 2021～22 年度 「夢たまご」プログラム策定 2023～24 年度 「夢たまご」プログラム策定
2	施設設備の更新と校舎改修、校地整備	2020 年度 体育館改修 2021～23 年度 教室棟1階、特別教室改修 2022 年度 新体育館検討開始 2023 年度 新体育館検討 2024 年度 新体育館着工
3	毎年イノベーション	2021 年度 横浜武道館での「なかよし会」実施 2022 年度 創立 70 周年記念事業 第 2 回BCJコンサート
4	関東学院小学校オリジナルの開発	2020～24 年度 周年行事記念品制作

関東学院六浦小学校 中期計画(2020-2024)

校長 黒畑 勝男

六浦小学校の中期計画は、キリスト教に基づいた教育により、校訓「人になれ 奉仕せよ」を将来に実践する人材を育てることを目標におきます。児童は本校を卒業して10年後には大学卒業の年齢に達し、20年後には社会人として一定の責任をもつような立場となる年齢を迎えます。その10年後、20年後に、他者のために奉仕する、社会のために貢献する心と奉仕・貢献できる力を兼ね備えた人材を育成することを目指します。そのために児童一人ひとりを尊重した学習指導・生活指導の充実を図ります。また、教育内容の充実と効果的な広報活動によって、少子化が進む現代社会において児童数を確保して、経営の安定に努めます。

その実現のために、キリスト教教育の充実、校訓「人になれ 奉仕せよ」の具現化を目指した人材育成、教育目標「喜びを分かち合う」心の育成、児童一人ひとりを尊重した教育の充実、教育環境の整備、広報活動の効果的取り組みによる児童数の増加に取り組めます。

教育理念

聖書の教えを基に、児童を神から託された存在と捉え、一人ひとりを愛し育む。

幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操と創造力を培うとともに、健やかな心身を養い、真理を求め社会に奉仕する人を育てる。

教育目標

1. 感性豊かで知的探求心旺盛な児童を育てる。
2. 社会の役に立つ人となるための学力を有する児童を育てる。
3. 共に学ぶなかで、人への信頼感を持ち、自己を肯定できる児童を育てる。
4. 多様な考え、価値を尊重できる児童を育てる。

使命

1. 児童自ら価値や疑問を見だし、学ぶことの素晴らしさを体験できるよう学びの礎を培う。
2. 社会と連帯し共に歩む人格的基礎を養う。

1. 方針

六浦小学校の概ね5年間の中期計画の方針として、キリスト教教育の充実のために、礼拝・聖書の授業等キリスト教教育全般を意識して大切にする体制を構築します。また、児童一人ひとりがもっている個性・才能、すなわち「のびる」要素を大切にして伸ばしていきます。そのために2019年度から開始した「六浦小モデル19-23プラン」を、段階的に実践していきます。これを通して児童が学ぶことの楽しさを知り、自ら進んで課題を発見して探求していく姿勢を身に付け、個性を伸ばして将来の夢の実現につながるように指導していきます。この教育活動は、2020年度からの新学習指導要領を包括するものです。そして、教育の充実、通学・子育て支援の充実により、入学希望者を拡げます。そのために以下の項目を掲げて進めていきます。

- (1) キリスト教教育の充実
- (2) 「六浦小モデル19-23プラン」の実践
- (3) 新学習指導要領を包括するより良いカリキュラム・教育の充実
- (4) 教員の授業力・指導力の研鑽・向上
- (5) 広報活動の効果的取り組み
- (6) 通学・子育て支援への施策拡充

2. 概要

六浦小学校の中期計画の概要として、聖書の授業やキリスト教行事を整備する等によりキリスト教教育をより体系化します。2019年度から開始した「六浦小モデル19-23プラン」における「私のパレット」により学習の個性化を、「私のポケット」により探求と自己表現の個性化を、「私のドア」により学習環境の個性化を図ります。このモデルプランは、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)や「カリキュラム・マネジメント」を包括しています。教員からの受動的な授業ではなく児童が自主的に学習し探求していくものです。また常に実践と修正とを繰り返しながら進化・発展していくものです。これらの充実した教育を行うために、教員はさまざまな校内研修・研究を実施するとともに、外部機関の研修会・研究会に積極的に参加し、授業力をはじめとした学校教育におけるあらゆる指導力の向上に努めます。同時に施設・設備・ICT を中心とする教育環境も充実させます。

これらの実現のため以下の項目を掲げて取り組んでいきます。

- (1) 校訓の意味を継続的に学び、実践する機会の創出
- (2) 「六浦小モデル19-23プラン」の実践による主体的学びの実現
- (3) 教育環境の整備
- (4) 新学習指導要領を包括するより良いカリキュラム・教育の充実
- (5) 相互理解のための英語教育
- (6) 新しい時代に備える資質・能力を身につけるための指導法・学習法の研究と、授業への積極的な導入
- (7) 地域の幼稚園・保育園や小学校との交流の計画的な実施と、地域の子どもたちの教育への私学としての貢献
- (8) 広報活動の効果的取り組み
- (9) 通学・子育て支援への施策の拡充

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院六浦小学校 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画時期の目安
1	校訓の意味を継続的に学び、実践する 機会の創出	2020 年度～ キリスト教教育の体制の構築
2	「六浦小モデル 19-23 プラン」の実践 による主体的学びの実現	2020 年度～2021年度 試行期間(延伸プラン) 2022 年度 本格実践 2023 年度 完成年度
3	教育環境の整備	2020 年度～ 六浦小モデル 19-23 プラン「私のドア」に よる整備(図書館の整備)
4	新学習指導要領を包括するより良い カリキュラム・教育の充実	2020 年度～ 六浦小モデル 19-23 プランによる「主体的・ 対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」 の実践、英語教育の充実、プログラミング教育実 施
5	相互理解のための英語教育	2020 年度～ 六浦小モデル 19-23 プラン「私のパレット」 による習熟度別授業の計画・実施 2021 年度～ 英語における「私のパレット」の本格実施
6	新しい時代に備える資質・能力を身に つけるための指導法・学習法の研究と、 授業への積極的な導入	2020 年度～ 同じ担当教諭による同一授業2回の授業研究 会実施 外部講師による研修会 金沢区公立小学校研修参加 横浜市授業研究会参加 六浦小モデル 19-23 プラン「私のパレット」によ る授業研究会 ICT 教育の実践

7	地域の幼稚園・保育園や小学校との交流の計画的な実施と、地域の子どもの教育への私学としての参画	2020 年度～ 学院内こども園及び地域の幼稚園・保育園との交流を計画・実施
8	広報活動の効果的取り組み	2020 年度～ パンフレット・チラシの効果的活用 学院内こども園への広報の拡大 幼児教室・各園訪問の計画的実施 各種体験出前授業実施 転編入児童募集の強化
9	通学・子育て支援への施策の拡充	2020 年度～ 放課後預りカナン、マナランチ等の支援方法の点検 2021 年度～ 放課後預りカナン、マナランチ等の支援方法の点検と改善・充実

六浦小モデル 19-23 プラン(5 年計画)

主体的学びの実現を目指しての教育改革の「一人ひとりの個性がのびる」三本の柱です。

1.「私のパレット」…選択型授業・複線型授業による教科授業の展開

学習の個性化を図るために、自分で選んだ型の授業で主体的に学習する機会を設けます。

学習活動や課題による選択型授業で、児童は勉強したいものを「自分で選んだ」という主体的なスタートにより、学ぶ意欲につながります。

2.「私のポケット」…自分の個性をとことん探求する「総合」

自己表現の個性化を図るために、教科の枠を超えた総合的な学びの場を設けます。

子どもたちは「やってみたい」「好き」と思っていることをとことん探求する、各自の興味を尊重します。

3.「私のドア」…子どもたちの活動力・創造力を刺激する環境の設定

学習及び学校生活の個性化を図るために、子どもたちが自ら考え、学べる場をつくる機会を設けます。

学習環境について、子どもたちが自分で学びを考える場を、すでにある施設を活用したり、新しい施設を用意したりして、提供します。

関東学院六浦こども園 中期計画(2020-2024)

園長 鈴木 直江

六浦こども園の中期計画は、教育理念に表されている『神さまに創られた大切なひとりとして愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養うこと』を目指し、「主体性」と「創造性」と「思いやりの心」を教育目標に掲げて取り組んでいきます。

また、遊びや活動の中で豊かな経験を積み重ねて、意欲と自己肯定感を高め、学習の基盤となる力と態度、感性を養います。保育の質を高めることを目指して研修研鑽に努め、研究発表を行っていくことで自分の保育を語る力を強めていきます。そして、広報活動の充実、業務の効率化を目指し、ICT 化にも取り組みます。

子育て環境の厳しい現代において、親育ち支援に力を注ぎ、広く、保育、教育、子育て支援のセンター的役割を、大学との協力関係のもとに果たしていきます。

教育理念

神さまに創られた大切なひとりとして愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

教育目標

1. 神と人に受けとめられる中で自己肯定感を高めて、自ら考え、選択し、決定して行うことのできる子どもの育成
2. 様々な人と関わる中で豊かに遊び、思いやりをもって共に生きる力を備えた子どもの育成
3. 自然のもつ教育力と子どもたちの意欲を大切に生活の中で、自ら環境に働きかけ創り出し、豊かな表現ができる子どもの育成

使命

1. 神さまに愛されているかけがえのないひとりとしての健全な自信を養い、自分づくりの土台を築きます。
2. 豊かな経験を積み重ねる中で、学習の基盤となる意欲と態度、感性を養います。
3. 子育て環境の厳しい現代において、親育ち支援に力を注ぎ、広く、保育、教育、子育て支援のセンター的役割を、大学との協力関係のもとに果たします。

1. 方針

六浦こども園の概ね 5 年間の中期計画の方針を、保育・教育の質の向上に関する項目、保育・教育の実施体制等に関する項目、保育者の質に関する項目、保護者との連携に関する項目、地域との連携に関する項目に分けて進めていきます。

- (1) 保育・教育の質の向上
- (2) 保育・教育の実施体制の向上

- (3) 保育者の質の向上
- (4) 保護者との連携
- (5) 地域との連携

2. 概要

六浦こども園は、保育者間の語り合いを大事にして保育を常に振り返り、検討し、子どもたちの姿から必要な環境やサポートを導き出していきます。

保育・教育の質の向上として、アート活動による豊かな感性を育む教育、自然を取り込んだ教育、木育を推進します。また教育の実施体制については、チームワークの良い保育者集団を構築して、教職員のコミュニケーション能力の向上を図ります。また、ICT化推進による広報活動の充実と業務効率化を図ります。

保育者の質については、キリスト教保育充実のための教職員バイブルクラスの充実や定期的なケースカンファレンス、アトリエスタの配置、学会等での研究発表により、研鑽に努めます。保護者との連携については、子育て相談、子育て講演会実施、ポートフォリオ活用による保育の可視化により保護者がつながり子育ての喜びを感じられるように努めます。

地域との連携については、専門知識のある地域の方を園に招いて子どもたちと活動する機会を作り交流を図ります。

六浦こども園の中期計画の概要に基づき以下の項目を具体的に掲げて取り組んでいきます。

- (1) 子どもたち一人ひとりが愛されていることを実感し、お互いの違いが認め合える園生活の実現
- (2) 教職員の学びと共通理解を図る
- (3) 園内保育研究と実践発表
- (4) 保育記録、保育可視化のための ICT 化、午睡チェック等の ICT 化
- (5) 園庭、室内環境の充実
- (6) 子どもの健康な身体づくりの推進(大学との連携、研究協力)
- (7) 大学連携の下にアート活動を推進、感性を磨くアート活動、研修の実施
- (8) 自然教育・木育を取り込んだ保育・教育の推進と充実
- (9) 親育ち支援及び連携
- (10) 地域とつながる保育の展開

これらのそれぞれの取り組みの詳細の一覧表をまとめて示します。

関東学院六浦こども園 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画時期の目安
1	子どもたち一人ひとりが愛されていることを実感し、お互いの違いが認め合える園生活の実現	2020 年度～ 園内研修の実施
2	教職員の学びと共通理解を図る	2020 年度～ 毎月 1 度のバイブルクラスの実施 2020 年度～ キリスト教保育を実施している他園への見学
3	園内保育研究と実践発表	2020 年度～ 外部講師による園内研修の実施 2020 年度～2022 年度 こども園カリキュラムの検討と構築 2020 年度～ 保育学会、幼児教育実践学会等で実践発表 2021 年度～ 異年齢クラス保育の検討と実施
4	保育記録、保育可視化のための ICT 化、午睡チェック等の ICT 化	2021 年度～ 保育記録の ICT 化の実施 2022 年度～ 午睡チェックの ICT 化の検討
5	園庭、室内環境の充実	2020 年度～ 園内研修、先駆的な取り組み園の視察 園庭や室内環境の改造 2020 年度～ 乳児園庭の改造 お父さんの会の活動の充実 2021 年度～ 外アトリエの構築と実施 2022年度～ 2階デッキにギャラリースペースを構築し、 日常のアートの展示
6	子どもの健康な身体づくりの推進(大学との連携、研究協力)	2020 年度～ 本大学教育学部との連携推進 (体力測定・研究協力など) 2020 年度～ 本大学栄養学部との連携推進 (食育指導・新メニュー開発 など) 2020 年度～

		本大学看護学部との連携推進 (育児体験など)
7	大学連携の下にアート活動を推進、感性を磨くアート活動、研修の実施	2020 年度～ アート環境の充実と研修 美術館見学 2021 年度～ 他分野のアーティストによるパフォーマンスの企画と実施 2022年度～ 年4回、パフォーマンスデイを設定
8	自然教育・木育を取り込んだ保育・教育の推進と充実	2020 年度～ 保育ナチュラリスト、木育インストラクター受講を促し、有資格者の増員 自然教育講師による研修の実施
9	親育ち支援及び連携	2020 年度～ 子育て相談、講演会の開催 保育の可視 2021 年度～ 乳児でポートフォリオを実施 2023年度～ 卒業生保護者のサークル活動やイベント参加の検討、実施
10	地域とつながる保育の展開	2020 年度～ 地域の人的資源を活用 区や地域のイベントに参加 小中高生のボランティア、職業体験の受け入れ実施 2020 年度～ 子育て支援関東学院親と子のひろば「おりーぶ」 との交流 2023年度～ 地域に出向き、おはなし会やイベントなど子育て支援事業を実施

関東学院のびのびのば園 中期計画(2020-2024)

園長 仲程 剛

のびのびのば園では、地域の中に存在する「幼保連携型認定こども園」として、その価値を十分に提供できるように、キリスト教に根差した保育理念に基づく活動を更に明確にしていきます。

「夢と希望と愛に満ちたこども園」を目標とし、学院の建学の精神に立ち、地域にとって良い影響を及ぼし、この関東学院のびのびのば園から子どもの未来をより良く創り出せる環境を提供したいと考えています。

大学まで備える総合学園のひとつとしては、小学校及び、中学校高等学校への学びの場の選択肢を広げ、保護者にも満足度の高いこども園を目指します。

業務を効率的に行えるように園内の ICT 環境を整備し活用すると共に、保護者や園外への情報発信についても、さらに充実させます。

就学前までの子どもたちの保育・教育においては、保育の質を高める努力を常に行い、子ども一人ひとりの心身の育ちを丁寧に把握し、将来の基盤となる豊かな人格を育むために、保育教諭の学びも継続します。

教育理念

聖書の人間理解に基づき、子ども一人ひとりを特別な存在として受け止め、神の恵みを分かち合いつつ、いつくしみ育む。

教育目標

1. 子ども一人ひとりの背景(家庭環境・国籍・民俗文化・個性・特性・障がい)を尊重し、キリストの生き方に倣う子どもに育てる。
2. 子どもの生活(あそび)環境を整えると同時に、発達の歩幅を考慮しつつ、心と身体の成長を促す。
3. 意欲(園生活に自ら関わり、深めていける力)、創造力(自分で考え、環境に働きかけ創り出す力)、思いやり(自分と同じように、友達の気持ちに寄り添うことのできる力)を育てる。
4. 自己理解・他者理解を通して「人になれ」を築き、共に分かち合う喜びから「奉仕せよ」を実践する。

使命

私たちは神から託された大切な幼子を、キリストの愛と恵みへと導き、ご家庭と共に幼子に仕えます。また、大学との連携により乳幼児保育の向上に努めます。

1. 方針

のびのびのば園の中期計画として、キリスト教保育を基本として、就学前の子どもたちがまさにのびのびとした環境の中で育ち、個性を大切にされることで「自分が大好き」という自己肯定感の高い子どもを育みます。子ども一人ひとりが、「自分はありのままの自分で良い」「自分是可以る」「自分には価値がある」という思いを、どんなときにも持てるように、日々の保育の中での保育教諭の関わり一つひとつを大事にします。その為に、保育教諭はキリスト教について学ぶ機会を持ち、いのちへの価値観を共有して保育・教育を行うこども園を目指します。

具体的方針として以下のことに取り組みを進めていきます。

- (1) キリスト教保育の可視化
- (2) 施設設備・保育環境の改善
- (3) 安心できる子どもの居場所の提供
- (4) 在園児に向けた課外活動の充実
- (5) 多国籍・多言語の日本における子どもの国際理解
- (6) 教職員の“人財”育成とそれに伴う組織の再構築
- (7) 保護者向けバイブルクラス及び子育て支援の実施
- (8) 事務業務の効率化と業務の改善
- (9) 少子化対策

2. 概要

中期計画の概要として、園の保育目標としている「やってみよう、表現しよう、大切にしよう」を保育の中に生かし、子どもの人格形成期に必要な個々の可能性を引き出します。

- (1) キリスト教行事の保護者への説明発信(2020 年度～)
年間行事 バイブルクラス、礼拝形式の入園式・卒園式・クリスマス・花の日・収穫感謝節、
季節ごとの始業礼拝 等
- (2) 日々の子どもの礼拝の充実(継続)
- (3) 定期的な子どもの礼拝の実施(継続)
- (4) キリスト教保育連盟の研修参加(継続・随時の案内による)
- (5) 保育の質の向上を目指した会議や研修の充実
- (6) 施設設備の充実・改善
- (7) 保育環境の改善
- (8) 地域の子どもが利用できる子ども食堂
- (9) 卒園児を含めた子どもの居場所としての学習支援や課外活動の検討
- (10) 現課外活動の見直し
- (11) 今後取り入れる課外活動の検討及び実施
- (12) グローバル化に備えた体験活動の実施
- (13) バイブルクラスの充実
- (14) 子育て支援(母親向け・父親向け子育て講座等)の充実
- (15) ICT 導入による事務業務の効率化及び保護者の利便性強化
- (16) 両小学校への内部進学に向けた両小学校との連携の確立
- (17) 安定した保育と園の運営に向けた体制の再構築

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院のびのびのば園 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画時期の目安
1	キリスト教行事の保護者への説明発信	2020年度～ ・バイブルクラス(教職者を招いて保護者にキリスト教への理解や安心できる時間を提供する) ・礼拝を行う。(入園式・卒園式・クリスマス・花の日・収穫感謝節等の礼拝、季節ごとの始業礼拝等、礼拝形式として行う意味を伝える)
2	日々の子どもの礼拝の充実	継続(保育教諭によるキリスト教保育誌を用いての礼拝)
3	定期的子どもの礼拝の実施	継続(地域教職者を招いての礼拝の実施)
4	キリスト教保育連盟の研修参加	継続・随時の案内による
5	保育の質の向上を目指した会議や研修の充実	・外部講師を招いた園内研修(継続・充実) ・外部団体による研修への参加(継続) ・他園や施設等の見学(2023～再開) ・他園や他事業所での体験実習(2023～)
6	施設設備の充実・改善	2019 年度導入、2020 年度～ 拡大 ・ICT 化に向けての利用拡大 2020 年度 ・園児の安全強化のため門扉設置 ・泥んこあそび後のシャワーブース設置 ・園長室の新規設置 ・玄関横のトイレを面談室へ改修 ・乳児廊下の安全強化フェンス設置 ・乳児階に大人用トイレ設置 ・施設全体のWi-Fi環境整備 ・警備員・用務員用の施設(外部)の改善 ・子育て支援・プレ保育室の環境整備 2021 年度 ・施設内・園庭に安全管理システムの整備 ・外置き警備室の改善 2022 年度～ (10 周年記念事業として) ・園庭改造 ・子育てカフェの設置検討 2023～ ・保育理念を体現するための施設設備に向けての勉強会開始

7	保育環境の改善	2020 年度 ・ひかり文庫の改築・改装 2020 年度～ ・自由保育の研究と室内保育環境の見直し 2021 年度～ ・情報機器端末の整備 ・ICT を活用した視聴覚機器の整備 （密を避ける行事への活用等）
8	地域の子どもが利用できる子ども食堂	2017 年度～ 継続 2021 年度～ 在り方についての見直し
9	卒園児を含めた子どもの居場所としての学習支援や課外活動の検討	2020 年度～ 社会課題取り組んでいる他団体・異業種交流も含めて、子どもが成長する環境に貢献する方向性をこども園としても意識して探り取り組む
10	現課外活動の見直し	2021 年度～ 外部講師による課外活動が、より園の価値に繋がるよう講師を含めて検討開始
11	今後取り入れる活動の検討及び実施	2020 年度～ 幼児に向けた園児対象プログラム（英語やゴスペル）の定期的開催 2022 年度～ 活動の見直し・充実
12	グローバル化に備えた体験活動の実施（項目の統合：旧 ネイティブによる国際理解カリキュラム導入（年中長）、旧 学院連携による国際理解イベントの実施、旧 多国籍・多言語による異文化体験実施）	国際理解や多国籍・多言語・多文化理解に繋がる体験活動を実施する 2023～
13	バイブルクラスの充実	地域の教会と連携し、保護者には聖書理解の為に垣根のない、キリスト教理解の場として、継続中。評判も良く、今後も継続。
14	子育て支援（母親向け・父親向け子育て講座等）の充実	2021 年度～ 子育て支援活動の充実とともに、保護者に向けた講座を開催し、父親向け、母親向け、祖父母向け等、子育てに関わる身内の人を対象として、学ぶ機会を持つ

15	ICT 導入による事務業務の効率化及び保護者の利便性強化	2019 年度～ 登降園連絡等、保護者との連絡システムの確立の他、可能性を実現へと繋げる
16	両小学校への内部進学に向けた両小学校との連携によるプランの確立	2019 年度～ 関東学院各園各校及び両小学校内を巡る見学バスツアー 説明会等の内部進学のご案内の年間スケジュールの検討・実施 両小学校との密なる連携 2020 年度～ 内部進学者の目標値の設定
17	安定した保育と園の運営に向けた組織の再構築	2023年度～ シフトの在り方の見直しと、組織的な園の運営のための園内体制の検討

法人 中期計画(2020-2024)

理事長 規矩 大義

関東学院がこれからも発展し続け、各校が理念を共有しつつも、それぞれが個性を際立たせ、特色ある教育・研究活動、地域・社会との繋がりを実現するために、財政管理、施設設備整備、人材育成を柱に、健全な学院経営を通して各校を支援します。

1. 方針

2023年4月の大学 横浜・関内キャンパス開学を機に、大学その他キャンパス、各校のキャンパスを含めた総合的な再編・再整備と、それに伴う組織機能の強化や人材計画、そしてその礎となる財政基盤の安定化に取り組めます。また各校の運営をより具体的に支援する体制を整備します。

- (1) 関内キャンパス整備後も適正な資産を確保し、財務基盤の安定を図ります。
- (2) 教育環境の改善と財政面とのバランスの取れた施設整備計画を進めます。
- (3) 組織再編、人材配置の適正化に加え、人材育成制度、人事評価制度の実質化を図ります。
- (4) 関東学院の支援者の拡充に努め、寄付金収入の増加を図ります。

2. 概要

法人の中期計画の概要として、以下の項目を掲げて取り組んでいきます。

- (1) 新たなキャンパス マスタープランの策定
- (2) 学院・大学のキャンパス再配置
- (3) 職員人事制度改革および職員研修制度の改善
- (4) 個性と能力が十分に発揮できる良好な職場づくり
- (5) 社会環境等の変化に対応する事務組織体制への再編と業務改善
- (6) 財政基盤の強化及び院内予算会計制度の見直し
- (7) 収入財源の多角化
- (8) 学院各校の個性化と学院のブランド力向上
- (9) 首都圏への広報・社会連携拠点の開設
- (10) 学びを支える情報基盤の整備

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

法人 中期計画プロジェクト詳細一覧表

No.	項目	計画の内容
1	【終了】 新たなキャンパスマスタープランの策定	<p>2019年度 横浜・関内キャンパスの整備計画・設計の支援 中長期施設・設備整備修繕改修計画の財源見直し</p> <p>2020年度 減築計画対象建物の判断基準、基本プランの策定</p> <p>2021年度 基本プランの策定</p> <p>2022 年度 【計画延期】キャンパスマスタープランの策定、周知・共有 減築計画の基本プランの策定</p> <p>【終了】 新たなキャンパスマスタープラン検討の過程で大学 横浜・関内キャンパスが開設され、金沢文庫キャンパス就学地の変更、並びに小田原キャンパス施設・設備の売却が進み、大学各キャンパスの整備計画が実行されたことにより、一定の成果が達成されたと判断し、2022 年度をもって検討を終える。</p>
2	学院・大学のキャンパス再配置	<p>2016年度検討開始 【計画修正】※各校の中期計画、横浜・関内キャンパス計画の開始に合わせて計画時期の再調整を行う。</p> <p>2022 年度 大学 湘南・小田原キャンパス運用方針の決定</p> <p>2023年度 大学 横浜・関内キャンパス開学 大学 金沢八景キャンパス、金沢文庫キャンパスの再配置</p>
3	職員人事制度改革および職員研修制度の改善	<p>2019年度 評価の処遇・待遇への反映方法の検討 職員人事評価制度に合わせた職員能力開発(SD)・研修の体系化・資格取得支援</p> <p>2021年度以降 【休止】高度専門職制度の導入 ※導入の可否を再検討するため休止</p> <p>2022 年度 管理職候補者研修、幹部職候補者研修の検討と実施</p> <p>2023 年度以降 処遇・待遇への反映に向けた職員人事評価制度の見直し検討 評価を反映させた研修の実施</p>

4	個性と能力が十分に発揮できる良好な職場づくり	<p>本学院に相応しい、より高い目標として「個性と能力が十分に発揮できる良好な職場づくり」を掲げ、以下の計画を遂行する。</p> <p>2022年度年度以降</p> <p>仕事と生活の両立支援を充実させ、ワークライフバランスを実現するため具体的施策を検討し実行する。</p> <p>能力と意志を適性に評価した人材配置</p>
5	社会環境等の変化に対応する事務組織体制への再編と業務改善	<p>2016 年度、2017年度に事務組織再編を実施し、2018年度から検証作業を行ってきたが、大学 横浜・関内キャンパス整備計画を機に事務体制の再検討を行うこととなった。</p> <p>2018年度</p> <p>職種区分の明確化による、ノンコア業務、ルーティン業務の明確化</p> <p>2019年度</p> <p>文書の電子決裁化、就業管理の電子化</p> <p>職員の業務内容を再検証、業務の簡素化</p> <p>ノンコア業務、ルーティン業務のアウトソーシング推進</p> <p>2022年度以降</p> <p>大学 横浜・関内キャンパスの開設及びキャンパス再編に向けた事務体制の検討とともに事務組織の改善を進める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等の対応とともに顕在化した「働き方改革」と労務管理体制を検討し実行する。</p>
6	財政基盤の強化及び院内予算会計制度の見直し	<p>2019年度</p> <p>施設建設プロジェクト予算編成の見直し</p> <p>【休止】プロジェクト型予算編成の再検討</p> <p>※方針変更のため休止</p> <p>2021年度</p> <p>学校法人会計基準における 2021年度予算・決算の基本金組入前当年度消費収支差額の黒字化</p> <p>【計画修正】2022年度～2023年度</p> <p>新経常部予算管理制度による2023年度予算編成</p> <p>新経常部予算管理制度による予算執行開始</p> <p>※院内予算会計制度の問題点洗い出しのため計画修正</p> <p>2022年度</p> <p>院内予算会計制度の問題点の洗い出し</p> <p>5年後を見据えた財政収支予測の作成(2023年度～2027</p>

		<p>年度)</p> <p>2023 年度</p> <p>院内予算会計制度及び会計処理業務の見直し、予算執行管理等、業務プロセスの見直し及び提案</p> <p>学院各校の施策の実現性の検証・助言</p> <p>5年後を見据えた財政収支予測の作成(2024 年度～2028 年度)</p> <p>2024 年度</p> <p>院内予算会計制度及び会計処理業務の見直し並びに変更案の検討</p> <p>5年後を見据えた財政収支予測の作成(2025 年度～2029 年度)</p> <p>2024年度以降</p> <p>新たな院内予算会計制度及び会計処理業務への移行(2026 年度を目途)</p> <p>以後、5年後を見据えた財政収支予測の作成</p> <p>教育活動収支差額黒字化、経常収支差額幅 10%以上、事業活動収支差額比率 5%以上確保</p>
7	収入財源の多角化	<p>2019年4月</p> <p>募金・校友課の法人企画部への組織変更</p> <p>他学校法人の募金・校友活動の状況調査</p> <p>2020年度</p> <p>募金校友情報の管理システム構築</p> <p>学院グッズ企画、他学校法人の状況調査。</p> <p>2021 年度</p> <p>募金校友情報の新管理システム運用</p> <p>学院グッズ企画、他学校法人の状況調査</p> <p>新たな寄付制度の検討</p> <p>2022 年度</p> <p>寄付制度の見直し</p>
8	学院各校の個性化と学院のブランド力向上	<p>教育・研究を中心とした実績をもとに各校の個性化を図り、学院として横浜の地で確固たる地位を守り、在校生、卒業生、保護者、受験生、地域・社会等から一層の信頼を得ることでブランド力を上げていく方針へ変更する。</p> <p>2022年度以降</p> <p>学院各校が取り組む個性化を学院として積極的に支援するとともに、改めて学院のブランディングについて検討を開始する。</p>

9	<p>【終了】 首都圏への広報・社会連携拠点の開設</p>	<p>2017年度以降 キャンパスマスタープランに沿った広報・社会連携拠点の整備 学院・大学のキャンパス再配置構想と新たなキャンパスマスタープランの策定と関連する事業のため、十分な調査・検討期間を持つ。</p> <p>【終了】大学 横浜・関内キャンパスの開設により、当初の目的は一定程度達成すると判断し 2021 年度をもって検討を終える。</p>
10	<p>学びを支える情報基盤の整備</p>	<p>2018年度 情報基盤更新に必要なシステム立案(JV 設立) 2019年度以降 各園各校 ICT 環境整備 2021年度～2024 年度 情報セキュリティに関する基盤整備 学院としての情報基盤整備、管理運用の統合・集約</p>

中期計画（2020-2024）

学校法人 関東学院

住 所	〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1
電 話	045（786）7036
メー ル	kikakukg@kanto-gakuin.ac.jp
URL	http://www.kanto-gakuin.ac.jp/
編 集	法人事務局 企画部 2020 年 3 月 28 日 発行 2023 年 3 月 25 日 改訂
